

令和7年度 岡山大学附属中学校 学校評価書

学校教育目標	「自主自律 豊かな心で たくましく」を体現する生徒の育成						
めざす子ども像	○ 個性を伸ばし、自ら学び続ける生徒 ○ 心身を鍛え、何事にも積極的に取り組む生徒 ○ 自ら判断し、正しく行動する生徒 ○ 互いの人格を尊重し、協調・奉仕する生徒						
第4期中期目標	○学習指導要領が目指す資質・能力を育成し、令和の日本型教育を構築することで地域の中等普通教育を先導する。 ○新たな価値を創造し、世界の革新に貢献する人材となる基礎を生徒が身に付けられる教育課程の在り方を追究する。 ○上記の教育研究・教育実践を基盤とした教育実習を充実することで、将来の教育界を担う教員の育成に努める。						
校長	前田 潔	学級数	15 学級	児童生徒数	536 人	教職員数	32 人
学校関係者評価委員	古廣俊三 若林昭吾 難波秀明 藤原佳代子 岡孝郎 笠井俊信						

【1. 前年度の評価と課題を踏まえた現状分析】

① 授業改善・学習者理解	④ 保護者・地域連携
・意欲的、積極的学習について生徒、保護者とも評価の改善が見られた。引き続き主体的に学習に取り組める授業づくりを全教科で追究する。	・クラウドを利用して保護者や生徒と情報を共有し、必要に応じて担任や学年団教員が欠席者や不登校生徒へ個別に対応しているため、保護者の肯定的な割合は93.2%と高い。本年度も継続して学校と家庭を繋ぐ効果的なICT活用を通して教育活動の質の向上を目指す。
・家庭学習が習慣化していない生徒が増えている。メタ認知と自己調整力を高める手帳アプリを導入し、生徒一人一人の状況を把握して支援する。	⑤ 環境整備・安全管理・業務改善
② 教育研究・幼小中一貫教育	・学びを止めないことを目的に、校内のどこからでも授業の配信と受信ができるよう、ICT機器の整備と活用を継続して行っている。生徒・保護者・教員とも評価が高い状態を維持し、本校の強みとして教育DXを推進する。
・総合的な学習の時間の指導を抜本的に見直し、高校の総合的な探究の時間へと発展、接続できる中学校3年間を見通したカリキュラムを確立する。	・教育活動がコロナ禍前に戻ったが超過勤務時間は減少している。「働き方改革」によって業務が効率的に改善されたと考えられる。来年度も様々な面から「働き方改革」を実施していくが、教育の質を担保し、向上を図る視点から、今まで行ってきた「働き方改革」を検証し、必要に応じて修正する。
・附属小中学校の互いの研究発表会へ参加する教員数がコロナ禍前に戻りつつある。連携して授業づくりや公開授業に取り組む機会を増やす。	
③ 教師教育・教員研修	
・昨年度、試験的に岡山県内の公立中学校教員の体験型参加研修を実施し、参加教員から好評を得ている。本年度も引き続き取り組む。	

【2. 自己評価】

評価領域	重点課題	具体的方策	成果指標・評価基準	達成状況の分析	評価
育 ① 授業改善・学習者理解	生成 AI 等を活用した主体的・対話的で深い学びの在り方の追究	○生徒・保護者・教員が生成AIを理解し、教育活用への共通理解を図る。 ○全教科が実践発表会を開催して授業を公開し、外部の参加者から評価を得る。	生徒・保護者・教員アンケートの肯定的な回答の割合 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (70%未満)	共通 (6) AIドリルの有効活用が不十分なため、肯定的な回答の割合が低下している。教科によって生成AIの使用頻度や使用場面に差が生じている。	3
	指導と評価を一体化したフィードバックの推進	○シラバスで生徒・保護者へ評価計画を通知し、評価の意義の理解を図る。 ○単元ごとに評価をフィードバックし、賞揚や改善の視点を示して支援する。	生徒・保護者・教員アンケートの肯定的な回答の割合 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (70%未満)	生徒・保護者 (19)、教員 (19) シラバスによる生徒・保護者へ評価計画の通知は浸透したが、評価方法や内容の改善は常に心掛ける必要がある。	4
	中高の系統性を踏まえた総合的な学習の時間のカリキュラムの開発	○3年間の見通しがもてるようにカリキュラムを示し、学年間の交流を行う。 ○10月と2月の発表会で学年を超えて議論や対話を通して探究を深める。	生徒・保護者・教員アンケートの肯定的な回答の割合 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (70%未満)	生徒・保護者 (22)、教員 (23) 3学年ともに探究を中心とした総合的な学習の時間の取組ができていたが、探究に当たっての基礎的スキルの向上の手立てが必要である。	4
	小中の教科の系統性に重点を置いた一貫教育の推進	○互いのカリキュラムと研究内容を把握し、一貫教育の視点から協議を行う。 ○附属小学校の研究発表会の授業づくりに関わるカンファレンスを開催する。	教員アンケートの肯定的な回答の割合 4 (90%以上), 3 (70%以上) 2 (50%以上), 1 (50%未満)	教員 (25) 研究発表会への相互の連絡周知・参加が不十分で、情報交換に関して、改善の余地がある。	1
③ 教師教育・教員研修	教師力の向上に向けた校内外の研修の実施	○公立中学校へ案内・募集を行い、全教科で体験型参加研修を計画する。 ○チーム担任制を実施し、学級経営や生徒指導に関するOJTを日常的に行う。	教員アンケートの肯定的な回答の割合 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (70%未満)	教員 (24) (26) チーム担任制を本格実施し、学年全体で生徒を見守り、指導する体制づくりが浸透してきた。体験型研修の申し込みがなかった。	2
	教師の魅力を実感できる教育実習の充実	○教師の魅力を実感できるよう、生徒の実態に応じた授業づくりを指導する。 ○教員として成長を実感できるよう指導教員との対話の時間を十分確保する。	教員アンケートの肯定的な回答の割合 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (70%未満)	教員 (28) 授業後の細かい振り返り指導は充実しているが、放課後は部活動の指導もあり、実習生と指導教員との対話の時間の確保が課題である。	4
④ 保護者連携・地域連携	教育DXの推進を前提とした、保護者との連携を深める方策の追究	○ICTによる効率化と対話による個別に合わせた指導のベストミックスを探る。 ○参観週間や各行事への保護者参加を促し、機会を捉えて対話で連携を深める。	生徒・保護者・教員アンケートの肯定的な回答の割合 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (70%未満)	共通 (7) 生徒・保護者 (21) 教員 (22) クラウドを活用した連絡は定着し、各種行事への保護者参加は盛況であったが、行事に不参加の保護者との連携を深める必要がある。	4
	地域と連携した教育活動の充実	○地域や地域の人材を活用した総合的な学習の時間のカリキュラム開発を推進する。	教員アンケートの肯定的な回答の割合 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (70%未満)	教員 (23) 総合的な学習の時間では同窓会や地域との連携を模索した取り組みも多くなり、地域に出て実際に調査・研究を行うものも増えている。	4
⑤ 環境整備 安全管理 業務改善	新しい時代の学びと創造的学習空間の形成を見据えた学習環境の整備	○令和の日本型学校教育を想定した学習環境の整備に努める。 ○1, 2号館改修に伴った新しい時代の学びと創造的学習空間を創造する。	生徒・保護者・教員アンケートの肯定的な回答の割合 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (70%未満)	生徒・保護者 (19) 教員 (20) 校舎改修が始まり、工事の騒音の影響で、肯定的な回答の割合が低下していると考えられる。完成後の活用について意識づけが必要である。	4
	生徒の安全・安心を高める危機管理体制と対応の充実	○教員の人権意識を高め、いじめを許さない学校環境作りを徹底する。 ○機会を捉えて小研修を行い、教員一人一人の危機管理能力を高める。	生徒・保護者・教員アンケートの肯定的な回答の割合 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (70%未満)	共通 (2) 生徒・保護者 (15,16) 教員 (16,17) 生徒・保護者は、安心して過ごすことができるという評価であるが、教員は危機感を持っている様子である。	2
	教育の質を担保・向上させながら業務改善を目指す働き方改革の推進	○教育活動の成果と課題を一つ一つ洗い出し、次年度の改善策を検討する。 ○実施した働き方改革を教育の質の視点から教育課程検討委員会で問い直す。	生徒・保護者・教員アンケートの肯定的な回答の割合 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (70%未満)	共通 (1) (3) (4) 教員 (27) 依然、ワークライフバランスが低い状態にとどまっておき、本校の使命を果たしつつ、改善を進める必要がある。	3

【3. 学校関係者評価】

取組状況に対する意見・要望等	評価
岡山県内の教育DXを牽引できるよう取組を今後も続けてほしい。 従来型の紙ベースの宿題を、個別・最適化の観点から見直し、より一層のAIドリルの活用について検討し、積極利用について、教員の足並みをそろえて年度当初から実施してほしい。	4
機構となり、連絡入試を続ける以上、附属学校園として幼小中一貫教育の視点での取り組みを充実させてほしい。 相互に情報を密に行い、研究会には積極的に参加し、お互いの授業を高めてほしい。	2
教育実習には、教員になる夢や希望を描いて多くの学生がやってくる。将来の同僚を育てる視点で、関わる姿勢を大切にほしい。 チーム担任制を実践する意義を共有し、メリット・デメリットを洗い出し、生徒・保護者に納得してもらえる取組に昇華させてほしい。	3
附属中の教育DXは県内の先導的なモデルになってほしいと考えており、今後も改善を続けてほしい。 地域連携については、総合的探究の授業などで、同窓会や各団体との連携に取り組み、活動を充実させてほしい。	4
1・2号館改修の意図を踏まえて、生徒が対話を通して学ぶ新たなカリキュラムの開発や授業の充実をはかってほしい。 学年始めに重点的に人間関係作りや探究的な学びの基本的なスキルの上達に時間をかけたい。生徒へのいじめ問題について考えを深める授業をより充実させてほしい。 教員のワークライフバランスの項目が依然低い状態が続いているので改善を目指してほしい。	3

【４．総括と次年度の重点課題】

■総括 ①授業改善・学習者理解、④保護者連携・地域連携については、アンケート調査から概ね目標を達成できていると考えられるが、AIドリルの活用については改善が必要である。 ②教育研究・幼小中一貫教育については、小学校と連携して、相互に研究会に参加するなど、お互いの教育に理解を深め、一貫教育をよりいっそう推進する必要がある。 ③教師教育・教員研修については、発表会や校内外の研修を通して教師力が高まったが、「チーム担任制・岡大附中モデル」については保護者や生徒のアンケート調査を基に更なる改善や議論が必要である。また、公開授業研究会や実践研究会、特に今年度参加者の無かった体験型研修については、市や県への広報・周知をさらに図っていく必要がある。 ⑤環境整備・安全管理・業務改善については、校舎改修工事が丸１年間続くことになるが、教育の質を落とさず、安全面への配慮もより一層徹底して行いつつ、進んでいきたい。 また、ワークライフバランスの項目の低さが依然続いており、業務の精選・効率化などに積極的に取り組みたい。	■次年度の重点課題（※大学への要望を含む） ○「教科の学び」と「領域（総合的な学習の時間・道徳・特活）の学び」の関連性を強化 生徒の教科の学びの関連付けの意識が低下している要因を分析し、主体的な課題設定と解決能力の育成を促進する。また、小学校とのカリキュラム連携を強化し一貫教育を推進する。 ○「チーム担任制・岡大附中モデル」の改善 本年度実施したチーム担任制に関する保護者や生徒の意見を基に改善し、令和の日本型教育の基盤となる取り組みを継続する。 ○創造的・協創的な空間を前提としたカリキュラムの開発及び授業改善 1・2号館改修後に創出される「STEAMラボ」、「Well-beingスペース」、「eラボ」等の教科融合型教室や生徒の発信や交流、ディスカッションを促す複数の「ラーニングコモンズ」を前提とした21世紀に必須の資質・能力を育成するカリキュラム開発や授業の充実を図る。 ○いじめ防止対策・情報モラル教育を継続して強化 人間関係構築を重視した学活や道徳のカリキュラムの改善や、PTAと連携して生徒がいじめ問題について深く考える授業や取組を充実させる。情報モラル研修の実施など、ネットトラブルの未然防止に力を入れる。 ○教育DXの推進 岡山県内の教育DXを牽引するため、AIドリルの有効活用をより一層推し進め、アダプティブラーニング（適応学習：生徒一人ひとりの理解度や学習進度に合わせ、AIなどが学習内容を最適化してくれる教育手法）の視点から改善を継続して行う。
--	---